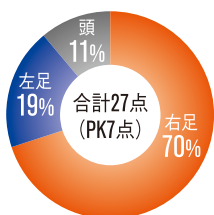


No.	節	日時	H/A	対戦相手	結果	シュートタイプ	ゴール時間
1	第4節	3/16	A	横浜	○2-1	右足(PK)	11'
2	第10節	4/20	A	東京V	△1-1	右足	5'
3	第12節	5/4	H	山口	○2-0	右足	16'
4	第13節	5/11	A	長崎	●2-3	右足(PK)	90'+7
5	第15節	5/25	A	琉球	●1-2	左足	83'
6	第18節	6/15	H	栃木	○2-0	右足(PK)	64'
7	第20節	6/29	A	鹿見島	○3-1	右足(PK)	38'
8	第21節	7/6	H	大宮	○2-1	頭	32'
9	第23節	7/20	A	山口	△2-2	左足	56'
10	第23節	7/20	A	山口	△2-2	右足	76'
11	第25節	7/31	A	町田	△3-3	右足	39'
12	第26節	8/4	H	徳島	○4-0	左足	30'
13	第29節	8/24	H	金沢	●2-3	左足	30'
14	第29節	8/24	H	金沢	●2-3	右足(PK)	68'
15	第30節	8/31	A	柏	△1-1	右足	13'
16	第31節	9/7	H	千葉	○2-1	右足	5'
17	第31節	9/7	H	千葉	○2-1	右足	18'
18	第33節	9/21	A	甲府	△1-1	頭	11'
19	第34節	9/28	H	水戸	○3-0	右足(PK)	90'+3
20	第34節	9/21	H	水戸	○3-0	頭	90'+5
21	第35節	10/5	H	鹿児島	○6-0	左足	18'
22	第35節	10/5	H	鹿児島	○6-0	右足	36'
23	第35節	10/5	H	鹿児島	○6-0	右足	64'
24	第35節	10/5	H	鹿児島	○6-0	右足	73'
25	第37節	10/19	A	福岡	●1-2	右足	78'
26	第38節	10/27	H	京都	○3-1	右足	58'
27	第38節	10/27	H	京都	○3-1	右足(PK)	69'

シュートタイプ



2019月別ゴール数

2月	7月	☆☆☆☆
3月	8月	☆☆☆☆
4月	9月	☆☆☆☆
5月	10月	☆☆☆☆
6月	11月?	☆☆☆☆



レオナルドが選んだ

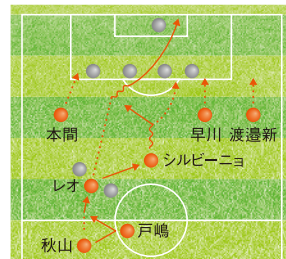
2019シーズンベスト3ゴール!

レオナルド本人と得点に関わった選手の視点で、あの場面を解説します。

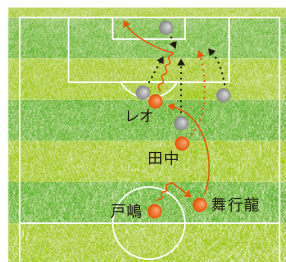


第38節・京都戦 [58分]

「ペナルティーエリア外からうまく決められたことと、後ろからのつながりも良かった。チームとしても今年一番」(レオナルド)。「監督から『ボールを持ったら点を取れるレオを意識しろ』と言われていた。相手のプレスをかくぐって、(戸嶋との)ワンツォで前に抜けたら、レオがサポートに来てくれたのでパスを出せた。あとはシルビーニョとレオが個の力で完結してくれました」(秋山)



←ボールの動き ...人の動き ~ドリブル



←ボールの動き ...人の動き ~ドリブル

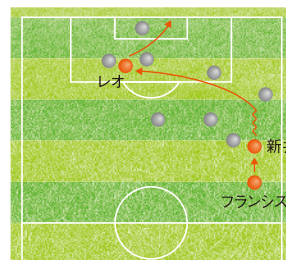
第37節・福岡戦 [78分]

「最初のトラップでいいところに置いて、2人のCBの間をうまく抜けて決められたのが気持ちよかった」(レオナルド)。「ボールを持ったとき、CBの1人が前に出たので、その奥に落とせばレオが内側に入れるかなと思ったら、その通りにしてくれた。レオは体の使い方がうまいから、胸トラップから反転して、すぐ前に入って打った。個の突破力を見せたと思います」(舞行龍)



第26節・徳島戦 [30分]

「(新井)直人のクロスをペナルティーエリア内でトラップして、左右持ち替えながらDF2人をうまく外して決められました」(レオナルド)。「DFとボランチの間を狙ったクロスの方が通りやすいというのが、ジェルソン(元GKコーチ)の分析。狙い通り、少しマイナス気味に上げて、こちらに体を向けていたレオの右足にうまく合わせられたことで、レオが決めてくれました」(新井)



←ボールの動き ...人の動き ~ドリブル

第35節・鹿児島戦 [36分]



←ボールの動き ...人の動き ~ドリブル

個人分析の活用でポジショニングを改善
アカデミーのメソッド部門で行なっている選手の個人分析(※本誌 Vol. 39 P 26参照)を、クラブの意向で7月にレオナルドにも実施。「フィニッシュ」と「スペースへのアタック」向上というテーマに取り組み、改善が見られた。
一例はJ2第35節・鹿児島戦の2点目。以前はサイドの選手にボールが入ると、近づいてコンビネーションをしたがるが多かったが、中央で待つようになり、クロスに対してDFの間うまく入り込んで仕留めた。「レオは相手にとって危険なスペースを見つけるのがうまくなりました。どこが危険で、いつそこに入るか教えるのは監督。得点が増えたのはあくまでトップチームのスタッフの功績であり、レオの謙虚に学ぶ姿勢によるものです」(サッカーサービス社/メソッド部門・オスカルコーチ)

ALBIREX NIIGATA SUPPORTERS' MAGAZINE

LARANJA

AZUL

Vol.40